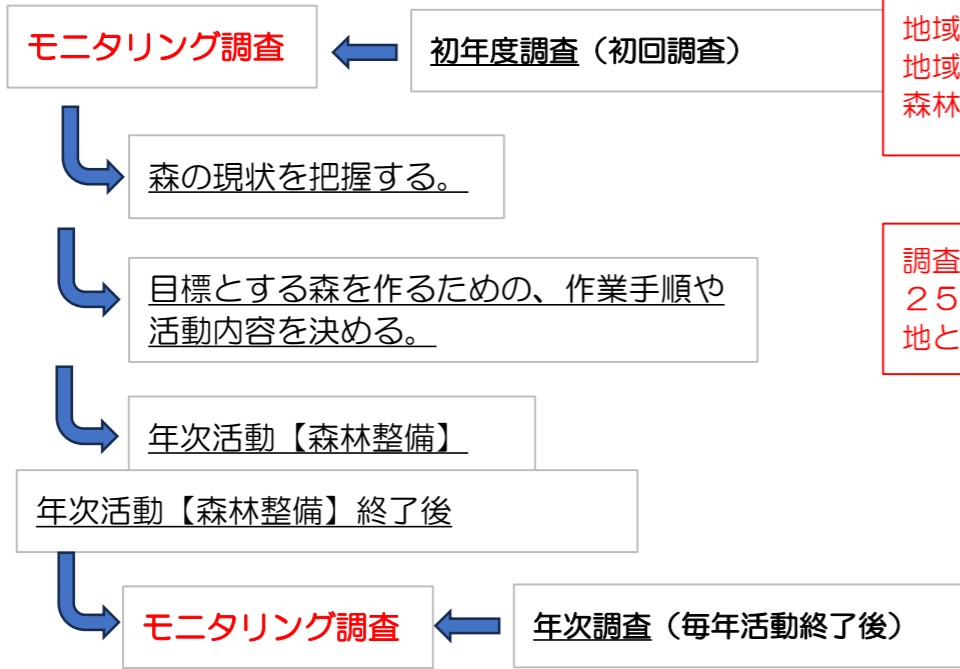


【モニタリング調査の実施と報告】

@ 活動を始める前に、必ず、『モニタリング調査』をおこないます。



地域環境保全タイプ (里山林保全)
地域環境保全タイプ (侵入竹除去・竹林整備)
森林資源利用タイプ

調査方法に応じて調査区 (円形100㎡、矩形25㎡、など) を設定します。この区域を標準地と呼びます。

※① 調査方法

- 地域環境保全タイプ (里山林保全)・・・① 木の混み具合調査 (相対幹距比、間伐率)
② 木材資源利用調査 ③ 樹木の本数調査 ④ 見通し調査 など
地域環境保全タイプ (侵入竹除去・竹林整備)・・・① 竹の本数調査
森林資源利用タイプ・・・① 木材資源利用調査 ② 特殊林産物等利用調査

※② 目標

初年度調査の結果から3年間の活動を終えた時の目標とする森林の状態を記入します。
例えば

- 竹林整備で初年度調査 (竹の本数調査) を実施して得た竹の本数から、3年後に何本の竹を残し、どのような竹林 (タケノコの取れる竹林、明るく風通しの良い竹林・・・) にするかを記入。
- スギの人工林で初年度調査 (木の混み具合調査) を実施して得た数値 (込み具合) を何%改善し、どのような森林 (林内の光環境を改善して、多様性に富む森林・・・) にするかを記入。

モニタリング調査

モニタリング調査は、整備しようとする森林の現状を知り、目指す森づくりのためにどのような活動が必要か、目標に向けた作業の進捗状況はどの程度かなどを知り、数値で確認することができます。例えば、0.3haの竹林を整備して『目標林型はタケノコの取れる美しい竹林、数値目標は3500本/ha』を目標とします。・・・竹の数値目標は1haを基準とします。・・・調査方法は竹の本数調査、調査区は矩形25㎡ (5m*5m) となります。(調査区は、ロープ等を使って表示します。)

モニタリング調査の結果、調査区内に18本の竹があったとすると1haに7200本(25㎡*400=1ha)の竹があると推定します。数値目標は3500本/haですから3700本/haの竹を伐採する必要があります。これを調査区に換算すると3700本/ha÷400=9.25本ですから、9本伐採し残す竹の数は9本 (9*400=3600本/ha) となります。3年間で9本伐採して目標達成度100%です。1年目は林床整備を行い調査区内の竹を1本伐採、2年目に4本伐採し、3年目に4本伐採すると調査区内に9本の竹が残ります。この時の調査区内の林型が竹林全体の林型になるように整備することで、『タケノコの取れる美しい竹林』が完成し目標達成度100%となります。

別添1～3 モニタリング結果報告書 参照

(別紙3 様式第18号)

令和4年度 モニタリング結果報告書

活動組織名: ○△○△保全の会

1 活動の目標と活動実施前の標準地の状況

タイプ名:	目標:
調査方法: ※①	※②
活動実施前の標準地の状況 (令和○年度)	写真
モニタリング調査 (初年度調査) の実施結果をふまえて、山林の現況を記入。	活動前の現況写真を貼付

2 活動1年目の標準地の状況 (令和○年度)

標準地の状況	目標達成度:
年次活動が終了した後、モニタリング調査 (年次調査) を実施して現況を記入。	写真
次年度に向けた改善策	1年目の活動終了後の現況写真を貼付
年次調査の結果をふまえて、目標達成のために次年度の活動について記入。	

3 活動2年目の標準地の状況 (令和○年度)

標準地の状況	目標達成度:
年次活動が終了した後、モニタリング調査 (年次調査) を実施した状況を記入。	写真
次年度に向けた改善策	2年目の活動終了後の現況写真を貼付
年次調査の結果をふまえて、目標達成のために次年度の活動について記入。	

4 活動3年目の標準地の状況 (令和○年度)

標準地の状況	写真
年次活動が終了した後、活動の最終結果について記入。	3年目の活動終了後の現況写真を貼付
目標達成度 目標達成度: 100% (3年間で、初年度に立てた目標を達成する。)	

(注) 目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。

『モニタリング結果報告書』は、実績書類として毎年度提出が必要です。